

## (12) 日本初公費負担による学校看護婦「廣瀬ます」の学校教育に与えた影響

川崎医療福祉大学 保健看護学科 ○石川フカエ

### 【要旨】

この研究発表は日本初公費負担による学校看護婦「廣瀬ますの」の学校教育に与えた影響を残された文献と聞き取り調査から「廣瀬ますの」の人物像と没後75年を経た今も岐阜市京町小学校（平成21年度から岐阜市立金華小学校と統合併せられ岐阜市立岐阜小学校となる）に「まず健康」の文字と概念が醸成されたのかを検証し考察を加えたものである。

### I 廣瀬ますのについての概略

明治16（1884）年1月1日に廣瀬徳蔵の三女として生まれ戸籍名は「廣瀬ますの」であった。ますが「ますの」だった第一発見者は廣瀬寿佳氏で戸籍の確認に立ち会わせさせていただいた。そこで、これ以降の本文では「ますの」と表現するが、既存の文献引用等においては「ます」と表す。

岐阜市教育委員会発行の道徳副読本（昭和33年）によると「廣瀬ますは9人兄弟の3番目だったが姉2人は幼い時に病死のため7人兄弟の一番姉として幼少期よりよく働いた。小学校へ通い始めた10歳のころ、当時大流行していた天然痘に罹った。その頃は日清戦争（明治27～28年日本と清国との戦争）の直前で衛生思想も低く、予防注射もしなかったため、うち中の者が感染し、特にますは重症で顔面いっばいにあばたができてしまった。＜母は、顔は少しみにくくなっても、体さえじょうぶになってくれたのだから、＞とかえって健康になったますを見てよるこんでいた。父は蚕の種付けの商売をしていたが、大勢の家族を抱えてかなり苦しい生活をしていた。こうした中でますは小学校4年生の課程を終えると翌日から蚕繭から絹糸を作る糸繰りの仕事を習った。

明治33年岐阜県立病院内に看護婦養成所は設立され、明治38年4月看護婦養成所へ入学した。当時のますは「これこそ自分に与えられた仕事」と飛びつく思いで、母の反対を押しきって養成所に入所し「一生を看護婦となって気の毒な人のために尽くしたい」と心に誓ったと記されている。今回の調査では看護婦の資格を証明できる根拠は得られなかったが、助産婦免許は明治44年3月23日免許番号1310で名前は「廣瀬ます」と明記され、岐阜県庁医療整備課に残されていた。

明治41年9月に岐阜県立病院から岐阜市立京町小学校にトラホーム治療のため派遣され翌年42年11月から岐阜市の囑託の身分となり、京町小学校の専任学校看護婦として給与も市から支給されるように

なった。以来昭和10年まで実に28年の長きにわたって勤務した。（1985年、東山書房、養護教員の歴史）

廣瀬ますは昭和10年3月当時ボランティアで助産活動していた患者の家で腸チフスに感染し翌月の4月2日午前10時40分、岐阜市立病院にて現職のまま52歳の生涯を閉じたのである。

### II 廣瀬ますの学校教育に関する業績録（昭和10年7月帝国学校衛生看護部、文部省構内、学童養護第8巻7号）

1. 大正14年 岐阜市教育会表彰 教職員と同等の魂を以て永年勤務の功の表彰
2. 昭和3年 岐阜県知事表彰 学校衛生に盡瘁せられた功績（京町小学校小幡治子『故廣瀬ます先生追悼の記』より抜粋）廣瀬先生が学校へご勤務になった頃の治療室には、トラホーム洗眼用の器具が二～三個あるだけで救急箱はあっても必要な薬品や材料がほんの僅かで、石鹸、タオル、洗面器を初め包帯材料などもご自分が僅かな手当を割いてお求めになってお居られました。併し、先生は、お母様から受けられた固い信仰に生きて居られましたから、之を少しも不幸とせず唯々児童のために寝食を忘れてお盡しくございました。校長先生も学校の自慢の一つとして参観者があれば必ず治療室にご案内になる程でした。大阪市に博覧會がありました時にも、その他の共進會・博覧會等にその実況の写真を出品せられて褒賞賞状を受けられたこともありました。
3. 昭和9年帝国学校衛生會による学校衛生表彰（昭和9年帝国学校衛生看護部、文部省構内、学童養護第7巻12号）
4. 児童に向けた養護活動の足跡
  - (8) 伝統行事として学校統合の今も継続されている6年生夏季鍛錬キャンプ
  - (2) 「まず健康」の思想が京町小学校の全児童と教職員・卒業生に醸成される。
  - (3) 道徳の副読本（教材）として「廣瀬ます」の子どもへの熱き支援が活かされる。

### III まとめ

杉浦守邦（1971年、養護訓導の歴史、山形大学名誉教授）は、「開拓者の前途は常に茨の道である。これにくじけず、ひるまず貫き通す人こそ、真に非凡の人といえる。開かれた大道を、後に歩むものは先人の苦勞を深く多としなければならぬ」と述べて

いる。さらに「廣瀬ますがもっとも学校で心を尽したのは、児童に保健意識を育てることだった。学校診察の効果などは知れたものである。学童期にうえつけられた保健的な知識、態度こそ、その人の一生の健康を築くものである」と述べているように、廣瀬ますのの養護活動は「まず健康」の概念を京町小学校に残したことであり、その健康を習得していくための学習方法は、廣瀬自身が自己の研鑽に基づ

き、自然体で子どもを慈愛に満ちた行為で導いたことである。

今、養護教諭に向けられている期待や役割・守備範囲は大きく広く、或いは深くなってきている。まさに先人に学び、他の国には見られない養護教諭制度を確実に科学的なものにしてゆかなければならない。